

質疑・質問

中野 寛之 議員



(二門一答方式)

- ① 市長の政治姿勢
- ② がんばるひと応援事業
- ③ 有害鳥獣対策の電気柵

市長の政治姿勢について

問 市長の提案がきっかけとなり、臥龍山荘がミシュラン・

グリーンガイド・ジャポンの1つ星として認定をされた。これは市民にとって非常に喜ばしく、外国人観光客の増加など、外部からの

視点というものの重要性を改めて感じている。

大洲市にはほかにもさまざまな資源があるが、やや発信力の弱さを感じている。今後、市の政策等の発信力の強化についてどのように考えているのか。

答 行政が発信する情報には、公平性を図らなければいけないなど一定の制約等があります。そうした中、地域、民間の方々においても取り組みをされていますので、市としては、例えば大洲市のホームページとリンクを図るなど、そういうトータルの力を合わせて、その結果として大洲市の

ミシュラン・グリーンガイド・ジャポンの1つ星として認定された臥龍山荘(不老庵)



さまざまな情報を多くの方へ出せるような仕組みをつくっていききたいと思っています。

がんばるひと応援事業について

問 がんばるひと応援事業は、ソフト、ハードの両面の事業で利用することができ、地域の住民、コミュニティ活動の活性化に大きな役割を果たしている。今年度で6年目となるが、今後どのように取り組むのか。

また、制度の周知についてはどのように考えているのか。

答 今後の取り組み方針としては、地方創生につながる活動を促進するためにも、引き続き当制度を活用することにより市民との協働による魅力ある地域づくりを推進していきたいと考えています。さらに、事業成果報告会や研修会の開催など、地域活性化の核となる団体等の育成にも努めていきたいと考えています。

また、市民へのさらなる周知については、今年開設されたフェイブックの市公式ページなどソーシャル・ネットワーキング・サービスの活用を検討し、情報発信の充実を図っていききたいと考えています。

有害鳥獣対策の電気柵について

問 本年、動物よけの電気柵で感電し、2人が死亡するという痛ましい事故が発生したが、市内でもイノシシ、鹿等の被害防止のため、電気柵は多数設置されている。

県より電気柵の点検や改善指導の要請があったが、今後どのように調査し、どのような対応を考えているのか。

答 調査については、県、市の助成制度を活用し設置された電気柵115カ所の設置者に対し文書で注意喚起を促すとともに、無作為により15ヶ所を抽出し、法令に基づき適切な安全対策がとられているか、現地調査を行ったところです。残りの100ヶ所については、10月を目途に市職員により集中的に調査を行う予定にしています。

また、市民の皆様へは、広報紙、防災行政無線、市の公式ホームページなどにより周知活動を行っているところであり、今後においても、設置者に対する啓発を進めるとともに、市民の安全確保に取り組んでいきたいと考えています。